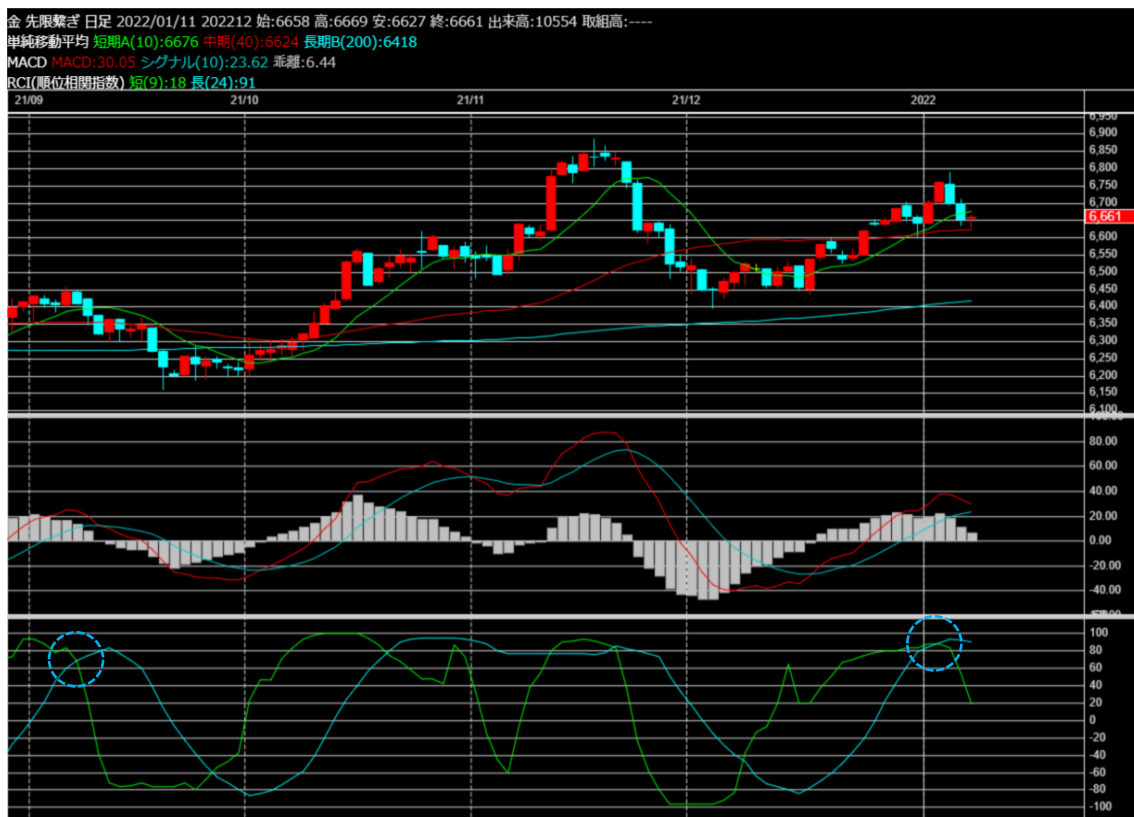


<金標準先物、利上げ観測で金利を生まない金は下落・・・>



(出所：オアシス)

FOMC 議事録では早期の利上げ観測やFRBのバランスシートの削減まで言及が示されている。そのため大手投資銀行のJPモルガンやシティなど従来の6月以降の利上げ予想を3ヵ月前倒して3月の早期の利上げ予想に変更している。特に雇用統計では、非農業部門就業者数が低下したが、失業率は2020年2月以来の4%以下を示すなど、FRBが目標とする完全雇用に近い。また今週は12日にインフレ指標である消費者物価指数(CPI)の発表を控え、11月はコアCPIの前年比で4.9%増となるなど1982年6月以来の高水準を示すなどインフレ高のきっかけとなっている。

特に米国債の10年物国債金利は、昨年の最高水準を上回り1.765%まで上昇しており、金利を生まない金価格においては妙味を欠く要因だけに、戻り売りの動きが強まる状況である。そのため今週のCPIの発表に向け金標準先物は、6550円～6500円に向けた下値追いの値動きに注意が必要であり、6630円を下回ると下落に拍車がかかる可能性が高まると予想される。

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDが下げながら、シグナルは上昇を続けており、ヒストグラムの乖離は縮小している。またRCIでも短期が長期を下回り下落しながら長期も下げだしており、オシレーターは弱気に転じる動きを示している。そのため戻り売りの値動きに注意したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 459,800 円(2022 年 1 月 11 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2022 年 1 月 11 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>